

かれんと

No.31

2007.9.25

Current:カレント

時代の流れあるいは
新しい潮流

子育てで再発見!

笑顔の先にあるものは?

子どもたちは今?

登下校と放課後の安全対策、出産と仕事の両立…

子どもたちの環境は大きく変化しています

たくさんの人々に支えられてこそ

子どもたちの笑顔が輝き

さらに地域の宝となっていくでしょう

子どもたちの笑顔をパワーに変えて

「元気なまち・かぬま」

主な内容

- ・子育て再発見!
- ・放課後の子どもたちは…今
- ・職場に広がる子育て理解
- ・男女共同参画プラン
- ・お気に入りBOOK
- ・ひとくちメモ
- ・編集後記

※「かれんと」は、ボランティア編集員が担当し、作成しています。

放課後の子どもたちは…今

学童保育 につこりくらぶ

今回は北小学校校区の学童保育を取材しました。昔ながらの木造住宅を改装して、子どもたちのために開放している部屋には、手作り遊具が並び、庭の草花が飾られ、明るく家庭的な雰囲気があふれています。そこで学童保育を自らの信念のもとに実践している田野井輝恵・三郎先生にお話を伺いました。



▶帰ってからのおやつタイム

乳幼児期には親や保育制度によってしっかりと守られてきた子どもたちが、小学生になると放課後を寂しく過ごすさなければならぬ現実。直面し、地域に根付いた児童健全育成対策として、平成4年に開所しました。5人からのスタートでしたが、現在約90人の子どもたちが元気にいっぱいここです。

取材当日、1年生は2時半下校。帽子に旗を持ちながら三郎先生の出番です。危険の無いように配慮してお迎えに行きます。



▲三郎先生のお迎え光景

「ただいまーっ！」と子どもたちが元気に帰ってくると、一気に部屋が華やきます。

おやつはグレープフルーツ。その日の天候や学校行事などを考え、当日用意しているそうです。

天気良ければ外遊び、勉強は子ども同士教え合い、学校にも家庭にもない良さがあります。遊びも子どもたちの自主性を重んじていろいろ工夫され、手作りの作品がところ狭しと飾られています。

「自分以外は皆先生」
「聞く耳を育てる」

「たのちゃん！」と子どもたちが次々と寄ってくる様子から先生との深い信頼関係が伝わってきます。「につこりくらぶ」は、家庭的な雰囲気の中でもしっかりと教育を実践している。第二の家といえるのではないのでしょうか。子どもたちの目は生き生きと輝いていました。



▲輝恵先生にお話を伺う

お迎えて子育て支援

ファミリー・サポート・センター
協力会員 小松崎元一さん

学童保育のお迎えの依頼を受け、活動しています。

毎日、生き生きとしている子どもと会って、私も元気をもらっています。子どもは日本の宝であり、鹿沼の宝だと思います。

私は仕事人間で、子育ては妻に任せきりでしたが、若いときにできなかった分を、今、地域のために少しでも役にたてたらと思います。日々活動しています。



学童保育とは

小学校下校後、保護者の就労等により家庭での保育ができない低学年児童を対象に地域組織としての児童クラブが児童の育成指導を行います。市内には現在22か所あります。

次のページの※印へ続く



星野さん・柴原さん・鈴木総務部長

職場に広がる子育て理解

～働くママを支える手～

仕事と子育ての両立を図るために企業で取り組んでいる、野尻にある株式会社スズキプレシオンにお邪魔しました。

鹿沼市の「企業内子育て環境アップ事業」に応募したきっかけは？

「以前より取り組みはあったんです。子どもを産んでからも、仕事をしたいという社員を迎え入れるのは、当たり前という感覚がありました。少しでも出生率のアップにつながるのであれば、企業側の責任として応援していきたいと思っています。今回、鹿沼市にこのような制度ができたことは、働く人たちにとって素晴らしいことですね」(鈴木)

育児休暇後の社員を受け入れて、課題は？

「課題がある場合、会社と社員で話し合いがもたれます。就業規則もそのつど見直しがされて、育児に対して前向きなものに変わってきました。企業にも努力が必要ですね。あとは本人の勤めたいという気持ちがあれば大丈夫だと思います」(鈴木)
復帰後の戸惑いや困ったことは？
「そうですね。休暇中も頻繁に会社と連絡を取っていましたが、復帰前には子どもを保育所に預け、実際に仕事の内容確認などをしていたので、わりとスムーズに仕事に戻ることができたと思います」(柴原)

出産後も仕事を続けることに関して、悩んだことは？

「仕事を続けるのは当たり前のことだと思っていました。両親と同居してて手助けをしてもらえると、この制度のあるおかげで安心して仕事に復帰することができました」(星野)

家族の協力は？

「はい、よき理解者です。うちでは夫が家事の手伝いをしてくれます。共働きなので、朝は毎日長時間との戦いなんです。上手に家事を分担して頑張っています」(柴原)

今後、時代の流れとともに、子育てをしながら働く女性が増えていくと思います。そのとき、誰もが安心して子どもを産み育てたいけるように、私たち一人ひとりが理解し助け合っていく社会を築き上げては…と思います。



※ちびっこギャング、今も健在!

東武新鹿沼駅西側に位置する花岡・村井地区では、子どもたちの帰宅後、あちらこちらから元気な声が響いてきます。

春から夏にかけて、田んぼや小川にはさまざまな生き物の姿が見られます。ザリガニや魚を捕りに集まる子どもたち。時代は変わっても、魚の採り方は昔と全く変わりません。二手に分かれ、一方が棒や石を使って魚を追い込んでいきます。それを待ちうけるもう一方の子どもたち。魚が網に飛び込んでくるのを、目を輝かせながら、今か今かと待ち構えています。

「毎日、こんな感じですね。気がつくとも、子どもが10人以上集まっている日もあるんですよ」と、いつも見守っているお母さん。自転車を通りかかった高学年のお兄さんが一緒に遊んでいるときもあり、他学年との交流もあるそうです。



地域に守られて

栗野地区の小学校7校では児童保育がないため「待機スペース交流事業活動」(文部科学省指定)で昨年からは、地域の人たちによる学校ボランティア放課後支援が行われています。その中の1校自然豊かな山々に囲まれた上粕尾小学校の支援活動取材しました。

全校生徒14人の小規模校で、毎週月曜日、1年生4人は授業が早く終わるため、上級生の下校時間を待っています。その間地元元ボランティア男女9人(代表山本孝子さん)が交代で子どもたちと一緒に遊んだり、本を読んだりしています。その日は校庭でボランティアの一人若林さんがお話を始めました。昔の川遊びや山遊びの話に、子どもたちは興味深々と聞き入っていました。

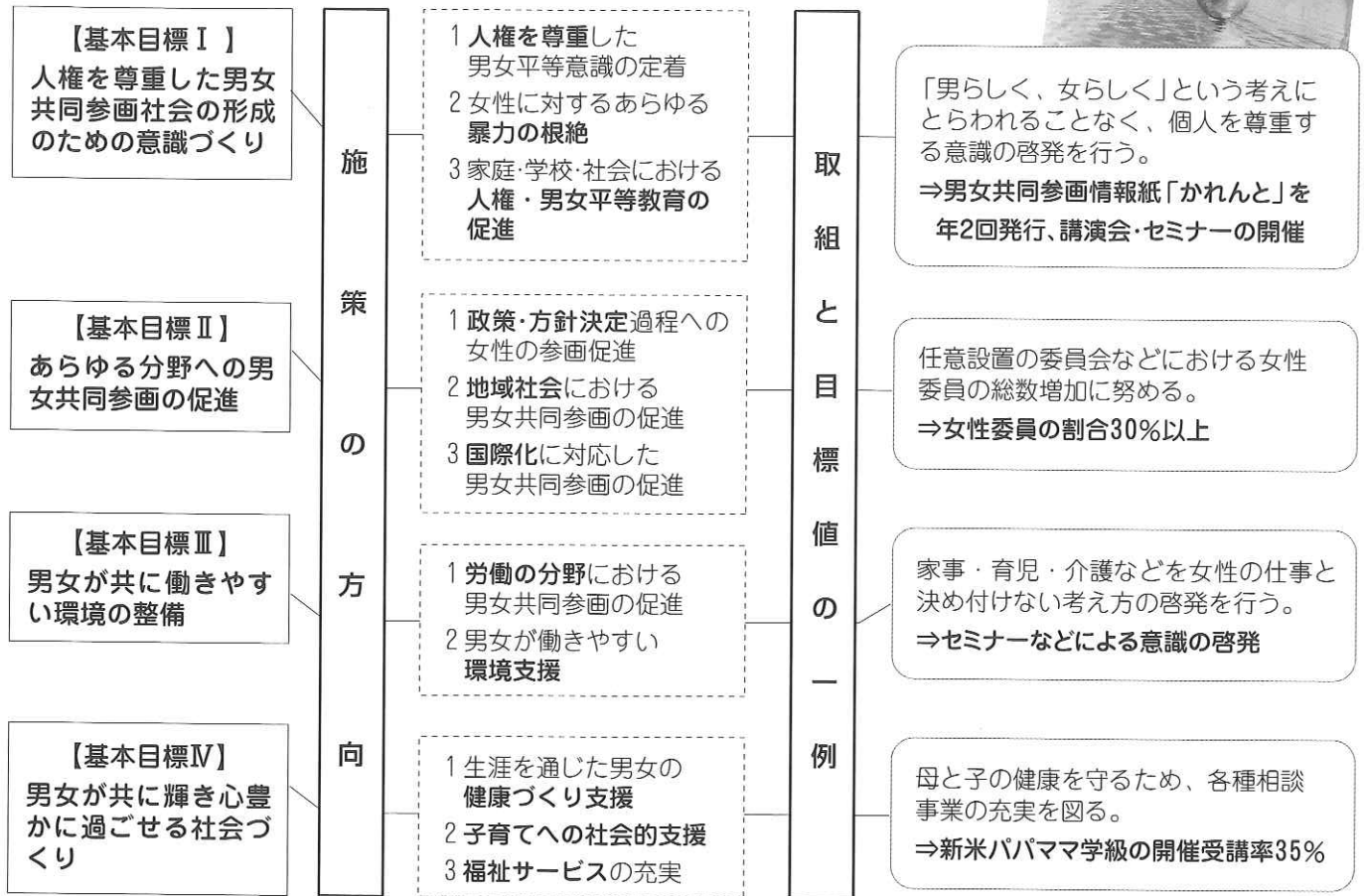
こうした地域ぐるみの活動で、子どもたちを守り育てていくことが、大切なことかもしれません。



かぬま男女共同参画プランがスタート！

「一人ひとりがいきいきと暮らせる男女共同参画社会をめざして」

市民・事業者・市が協力連携し男女共同参画を推進しましょう。



※「かぬま男女共同参画プラン」は、ホームページまたは図書館、各コミュニティセンターなどの施設で見ることができます。

ひとくちメモ



ダイバーシティ

「多様性の受容」を意味します。言い換えれば、外見上の違いや内面的な違いにかかわらず、すべての人が各自の持っている力をフルに発揮して組織に貢献できる環境をつくることです。

「人権ネットホームページ」より

編集後記

子どもは頑張るパワーをくれる魔法使いです。支えられているのは大人の方かも… (黒ちゃん)

初めて編集に係わって、いろんな再発見がありました。(みかん)

編集初参加です。取材先でたくさん笑顔に出会い、元気をいっぱいもらいました。(めだか)

子育ての基本、家庭のしつけ。過保護には注意！ (くに)

お気に入りBook



「おとうさんはウルトラマン」



作・絵 宮西 達也
出版社 学研

ウルトラマンが生まれて30年。スーパーヒーローの活躍に胸躍らせた子どもたちが、今お父さんになった…。一生懸命でまじめで不器用なウルトラ・パパの子育て絵日記。

家族のために頑張り、悩むお父さんを、ウルトラマンに重ね合わせながら、子どもでも大人でも楽しく共感できる絵本です。親子の絆を明るく再確認できるお薦めの一冊です。

頑張れお父さん。家族と、地球のために！